



たとえこの村がどんなに新しくなっても、新しい文化をどれだけ取り入れたとしても、大切に守っていかねばならない文化があります。

岩瀬村を中心としたこの地方一帯は「石背の国」と呼ばれており村のいたる所に貴重な文化遺産を見ることができま。六〜七世紀頃の直刀などが出土した跡見塚古墳をはじめ、源義家ゆかりの鞍掛岩や豆塚。伊達政宗の侵入にあい、悲劇の落城をとげた白岩城跡、中でも長命寺にある石造阿弥陀三尊来迎供養塔は、昔の人々の信仰の深さを現代に伝える価値の高いものとして、福島県重要文化財に指定されています。

岩瀬村のルーツを探るうえでも、このような文化遺産はとても重要な鍵を握っています。大切な自然を守るように、このような文化財を守り、後世に伝えることは並大抵のことではありません。

岩瀬村の未来のためにも、これからの子供たちのためにも大切に保存されていかなければならないのです。

古いものを大切にしながらあたらしいものを創造する、これも岩瀬のポリシーのひとつです。

